

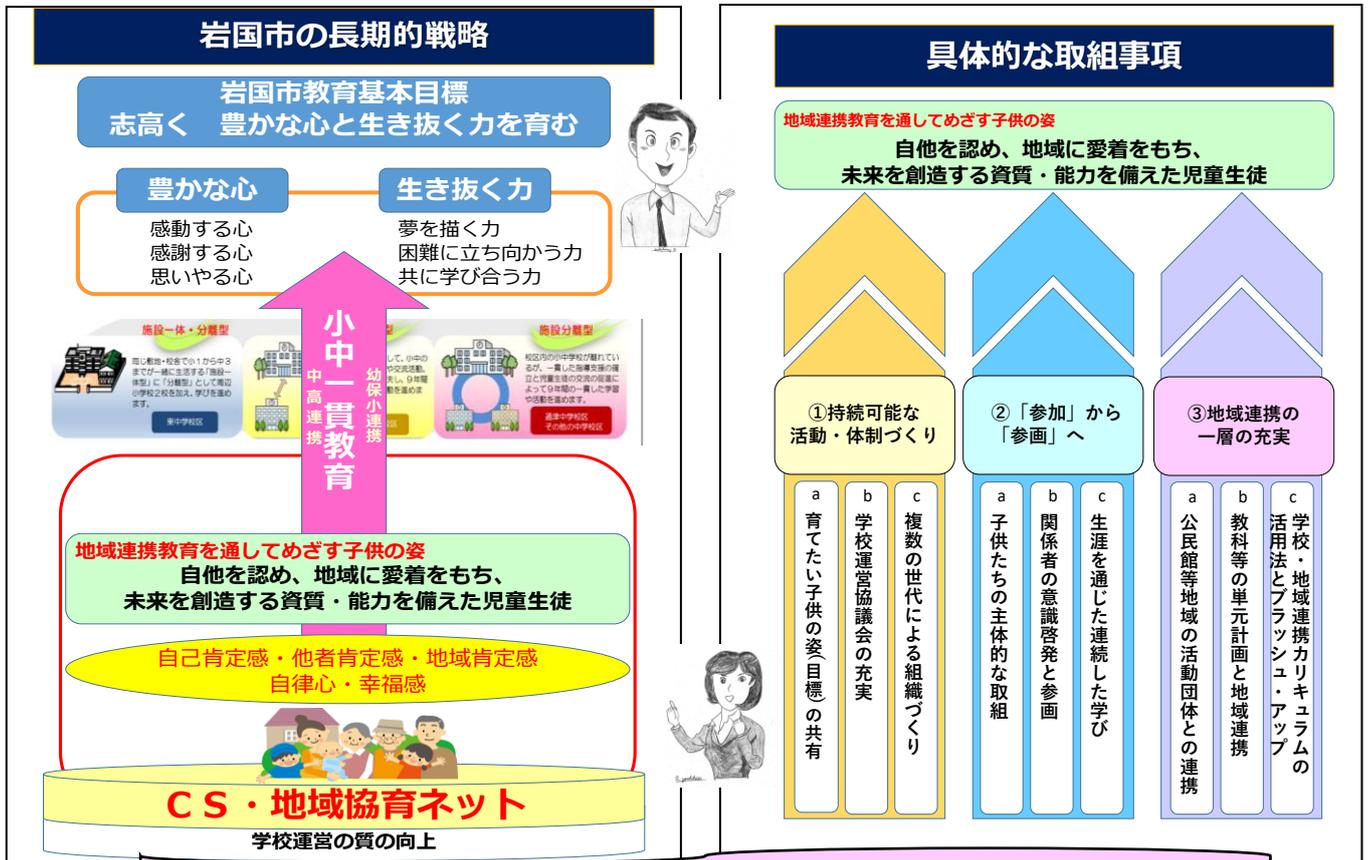


## 地域連携教育は 人をつなぎ 子供の未来をつくる！

学校と地域の連携に関連する施策については、2002(平成14)年4月、「完全学校週5日制」が実施されてから始まりました。「地域学校協働本部」は、2015(平成27)年に、多くのより幅広い層の地域住民・団体等が参画し、地域と学校が目標を共有しながら、「穏やかなネットワーク」を形成することにより、地域学校協働活動を推進しようと、中央教育審議会の答申で提言されたものです。

2017(平成29)年3月には、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、「学校運営協議会」(コミュニティ・スクール)の設置が、努力義務化されました。20年以上かけて国や都道府県が力強く推進している地域連携教育の魅力は、人をつなぎ、子供の未来をつくることです。

本号では、岩国市教育委員会の「地域連携教育を通してめざす子供の姿や取組」を紹介します。



地域連携教育推進の中心となるスタッフ4名です。よろしくお願いします。



生涯学習課 主査  
上原 健司



生涯学習課 社会教育主事  
平畑 典之



学校教育課 指導主事  
木村 ひろみ



アドバイザー  
大上 好久

※ 次号より、各小中学校等での実践を、この紙面で紹介します。ご協力よろしくお願いします。



愛宕小学校

## 顔が見える関係が 不安や悩みを和らげる!!

文部科学省に設置された「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」が、平成24年3月に報告書を出しています。その中で、『親が子に対して行う教育が家庭教育ですが、家庭内に閉じて行うのではなく、親も子も地域や社会で他者とのつながりや関わり合いを持つことが重要で、それが家庭教育の内容を豊かにし、家庭教育の目的である子供の社会的自立と、親が子育てを通じて自らの人生を豊かにしていくことにつながります。』と述べています。

岩国市では現在、山口県家庭教育支援チームが4つと、市単独の「とどける」家庭教育支援事業として支援員52人(令和5.3現在)が、家庭教育支援にあたっています。本号では、新1年生の生活支援を行いながら、親子の不安や悩みに寄り添う活動を展開している愛宕小学校を紹介します。



①新1年生の生活支援は、どのようにして始まったのですか？

②毎年、1年生の担任の先生が困っておられるのを知り、身近な存在である家庭教育支援員さんに、声をかけました。



地域協育ネット  
コーディネーター  
平井 真奈美さん

③喜んで聞き入れ、入学式の次の日から、クラスに3人程度入って下さいました。

ランドセルの片付け、給食の準備、トイレのお世話、時には提出物の回収の手伝いまで…



この紙、どうするの？

机の中よ。  
片付け、上手じゃね。

子供の様子をとてもよく知っておられます。すごく助かっています。何回もお願いしています。<担任>  
…気軽にお願いできる人間関係ができています。

お手伝いというより、一緒にやっている感じです。時には怒りもします。子供が大好きなのです。<支援員>  
…他人事でなく、当事者意識がとても強く、先生や保護者との一体感があります。

### 家庭教育支援員の 主な活動(支援)内容

- ① 挨拶運動への参加等による子供や家庭(保護者)との顔つなぎ
- ② 参観日等を活用した子育てサロン(相談会)
- ③ 新1年生等を対象にした家庭訪問による情報提供等
- ④ 不登校や登校しぶりの子供に対する登校支援
- ⑤ 子育てに悩みや不安を抱える保護者に対する家庭訪問による相談対応等



家庭教育支援員は、保護者と保護者、保護者と学校や関係機関との大切な「つなぎ役」です。



# つながり

大上好久

令和5年5月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



## つながりは 互いを知り合う 場づくりから !!

岩国市教育委員会は、2020(令和2)年度からすべての中学校区で、小中一貫教育をスタートさせました。岩国市小中一貫教育基本計画(令和5年4月一部改訂)の冒頭で、「子供たちの健やかな成長を図るためには、幼児期から小・中学校9年間を見通し、一貫した教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が協働した“地域ぐるみの教育”を推進していくことが、必要不可欠となっています。」と述べています。

本号では、学校運営協議会を活用し、小・中学校のつながりを深める活動を、地域住民とともに積極的に行っている玖珂中学校区を紹介します。

### 4/19 第1回 小中合同 学校運営協議会

- ① 授業参観(玖珂小学校)…全クラス
- ② 全体協議…学校経営方針や取組

(年間行事予定、学級担任、校務分掌など)について

キャリア教育・地域連携教育を柱にし、「かしこく、やさしく、たくましい玖珂っ子」の育成を目指します。

長岡 玖珂小校長

目指す学校像は、「安心して登校でき、楽しい学びが得られる学校」です。生徒会スローガンは「Fly High」です。

頑張ってるな。地域の子供の学ぶ姿を初めて見たな。〈学運協委員〉

司会進行は、任せて下さい。〈学運協会長〉

上田 玖珂中校長

子供や教職員、地域の皆さんがお互いを知り、本音で語れるよい機会となることを願い、会議の合同開催や授業参観を上田校長先生が提案されたということです。

生活支援ボランティアは、教材の準備までされているのですね。〈学運協委員〉

### 7/11 第2回 小中合同 学校運営協議会

- ① 授業参観(玖珂中学校)…全クラス
- ② 課題の共有と学校・地域連携カリキュラムの見直し

### 12/12 第3回 小中合同 学校運営協議会

- ① 児童・生徒を交えての熟議  
子供の意見を交えてテーマを決定

### 2/15~16 第4回 学校運営協議会 <小中別日>

- ① 学校評価
- ② 学校・地域連携カリキュラムに基づく活動の振り返り

校長先生の「困っています」の一言から始まった1年生の生活支援ボランティア、6年目を迎えました。喜んで活動している姿を学校運営協議会の皆さんに知ってもらえてよかったです。〈地域住民〉

※ 市内の各小・中学校で、地域や学校の実態に合わせた「持続可能な学校運営協議会や地域学校協働活動」が、模索されています。

【① 一つの中学校区に、いくつの小学校が集まっているかな?】

1中 1小	… 通津中, 麻里布中, 平田中, 玖珂中, 本郷中
1中 2小	… 川下中, 灘中, 岩国西中, 錦中, 美和中
1中 複数小	… 岩国中(小4), 東中(小3), 由宇中(小3), 周東中(小6)

【② 一つの中学校に、生徒は何人いるかな?】

300人以上	… 岩国中, 麻里布中, 川下中
200人以上	… 灘中, 東中, 平田中, 玖珂中, 周東中
100人以上	… 通津中, 由宇中
100人未満	… 岩国西中, 本郷中, 錦中, 美和中



岩国市教育委員会

## 学校と地域の融合で ハイブリッドな学びを !!

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会(中教審)が、令和5年3月に「次期教育振興基本計画について(答申)」の中で、“地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進”を掲げ、次のような課題を提起しています。

「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる。地域で人と人のつながりを作り、協調的な幸福感を紡ごうと取り組んでいる人たちが、自信と誇りを持つ事ができるようにしていく必要がある。 ※ウェルビーイング …経済的豊かさ、精神的豊かさや健康までを含めた 幸福や生きがい

本号では、それぞれの地域で、人と人との「つながりづくり」に携わっている方々の研修の場として開催した岩国市地域連携教育研修会(令和5年3月3日実施)の事後アンケートを紹介します。

①地域と学校の大人同士が  
つながることが大切だと思  
った。しかし、きっかけが難  
しいなと思う。(小学校 教員)

②社会、理科、道  
徳、生活などの教  
科や総合、道徳  
などのカリキュ  
ラムに位置付けら  
れると無理が少ない  
ですね。

②地域の方が学校  
で活動する場を作  
ることで、地域の方  
と学校(子供や教職  
員)がより深くかか  
われるようになると思  
った。(小学校 教員)

①管理職や学校運営協  
議会委員、地域学校協働  
活動推進員に遠慮せず  
相談してみてください。



### <事例発表>

岡野 油谷公民館長

~ミックス3つの潮流と地域連携教育の実際~



### <グループ協議>

~中学校区ごとの今後の取組について~



③周東中校区で  
は、地域協育ネット  
が立ち上がったば  
かりとのこと、今後  
の活動でお役に立  
てることがあれば、  
地域で協力したい。  
(社会教育指導員)

④平田中校区の  
地域の方は、いろ  
いろな面で学校を  
助けたいという気  
持ちは強いと感じ  
た。できるところ  
から、活動を進め  
たい。(中学校 教員)

⑥課題として、地域  
連携に保護者や育  
友会が参加するこ  
とが少ないという事  
があがった。育友会  
とも協力して、地  
域連携を進めたい  
と思う。(中学校 教員)

⑦学校側として  
の連携の悩みで  
はなく、地域側か  
らの悩みも相談  
し合うことができ  
てよかった。直接  
話し合うことが大  
切だと感じた。  
(小学校 教員)

⑧もっともっと地域  
の人の顔を、子供  
たちにも知ってもら  
うことが大事だと思  
います。大人の学  
ぶ姿を見せたい。  
(学校運営協議会委  
員<地域住民>)

### <まとめ・閉会行事>



地域住民と学校と社会教育施設のメン  
バーの思いが、自由に語り合う中で伝わり  
合ったようです。思いが活動に発展し、よ  
り多くの笑顔が見られるといいですね。



③④⑤  
地域の方の温  
かい思いを、  
子供の学びや  
成長につなげ  
たいですね。

⑤藤河分館にも共  
催団体として多く  
の方が活動してお  
られます。小学校  
に出向いて、子供  
たちと一緒に活動  
していただく機会  
があれば良いと思  
っています。  
(社会教育指導員)

# つながり

大上好久

令和5年6月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



周東中学校

## 多様な人々との出会いが 持続可能な社会の創り手を育てる！

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会（中教審）は、「次期教育振興基本計画について（答申）」〈令和5年3月〉の中で、今後の教育政策に関する「総括的な基本方針・コンセプト」を示しています。その冒頭で、“現在の経済水準を維持しつつ、活力あふれる社会を実現していくためには、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的な変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要である。”と述べています。

本号では、地域課題の一つである少子化・人口減少を踏まえつつ、1中学校と6小学校が一つとなって、子供の成長や学びを支えようと発足した「周東地域協育ネット」を紹介します。

### ① R4 5/25 第1回協議会 <発足>

- ・協育ネット協議会設置要綱・附帯事項の確認
- ・会長・副会長の選任
- ・名称、イメージキャラクター・愛称募集事項の確認

### ② R4 11/25 第2回協議会

- ・名称「わくわくしゅうとうネット」に決定
- ・イメージキャラクターと愛称の確認
- ・幟旗の活用方法

### ③ R5 2/22 第3回協議会 <熟議>

- ・《テーマ》めざす子供像  
「こんな18歳になりたい」  
「こんな18歳になってほしい」
- ・参加者 小中学生…19名  
協議会委員…23名

わくわくする周東町になるように、子供とともに頑張りたいですね。〈協議会委員〉

まずは、体と心をほぐしましょう。…… それでは、話合いの進め方を説明します…  
〈指導は、平畑社会教育主事〉

子供の考えたイメージキャラクターは上手だな。〈協議会会長〉

### ④ R5 5/25 第1回協議会<熟議>

- ・《テーマ》スローガン  
“愛と夢と行動”の言葉を活用し、「めざす子供像」をより具体的な目標にする。
- ・参加者 協議会委員 22名

若い人たちの頭の柔らかさに感心した。子供たちと話せる機会ができてよかった。  
〈学校運営協議会会長〉

緊張したけど笑顔になって話せた。地域のことを話せる周東町が好きです。〈子供〉

熟議で最初は緊張していたがしっかり話すことができた。地域の人と話せて貴重な体験ができた。〈子供〉

子供を活動の中心に据え、よさや可能性を引き出そうとする大人の本気が、子供の心を動かしています。

地域学校協働活動推進員の河林さんが、司会進行。熟議のファシリテーター（進行）もすべて地域の方でした。地域と学校の枠を超えた一体感を感じました。





## 学校が 学びの場 つながいの場に！

文部科学省は、学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編において、「家庭や地域社会との連携及び世代を超えた交流の機会（第1章第5の2の7）」を取り上げています。その中で、教育活動の計画や実施の場面で地域の教育資源や教育環境を一層活用していくことの必要性を述べた後、「…さらに、休業日も含め学校施設の開放、地域の人々や児童(生徒)向けの学習機会の提供、地域社会の一員としての教師のボランティア活動を通して、家庭や地域社会に積極的に働きかけ、それぞれが持つ本来の教育機能が総合的に発揮されるようにすることも大切である。」と述べています。

本号では、子供や地域住民の活動(学び)の場として、学校施設を積極的に開放し、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の一役を担っている岩国西中学校を紹介します。

### 4/20 全校生徒でフジバカマを植える

- ・藤村さん（学校運営協議会会長）による植え方の説明
- ・苗は、杭名小（現中1が栽培）と二鹿からの譲り受け

フジバカマの成長とともに、子供同士のつながり、地域とのつながりが、さらに深まることを楽しみにしています。

<地紙教頭>



KIZUNA 隊より地域の皆様へ  
アサギマダラに来てもらえるように、毎朝、水やりをしています。地域の皆さんもぜひ見に来てください。  
※KIZUNA 隊…地域を盛り上げる中学生の実行部隊

小学生のころ、河内小と杭名小で、フジバカマやアサギマダラの話で交流していました。<中学生>



### 5/17 杭名小・河内小・地域合同体カテスト

- ・岩国西中学校を会場として実施
- ・中学2年生が測定の手伝い
- ・保護者や地域住民が応援
- ・いわにしネットが市保健センターと連携し地域住民対象の健康チェック・食生活改善普及活動を同時開催

何してるの？血管年齢、野菜摂取量(ベジチェック)って何？<小学生>

健康を保つための検査だよ。みんな元気に長生きできるようにね。  
<食生活改善推進協議会員>

長座体前屈です。壁に背中とお尻をぴったりつけて下さい。ゆっくりと押しして下さい。頑張ってください。<中学生>

賑やかな中での血圧測定もいいですね。  
<地域住民>

### 6/23 子供と地域住民の講演会

- ・岩国西中学校を会場として実施
- ・子供と地域住民が対象
- ・中央公民館 北河内分館と南河内分館が合同で講師等をお世話

<講師…元タカラジェンヌ玉泉瑞穂(大空希望)>

学校と公民館と地域協育ネット協議会(いわにしネット)の一体感があります。「地域の子供や住民の皆さんの心と体を元気にしよう。」という思いが伝わってきます。学校教育の場が、人づくり・つながりづくり・地域づくりの場にグレードアップしています。





そお小学校

## 教師と保護者の信頼関係を深める 学校運営協議会！

文部科学省は、次期教育振興基本計画について（答申）＜令和5年3月＞の中で、今後の教育政策における総括的な基本方針として「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を大きく取り上げています。その中で、「子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場であることが重要である。子供の成長実感や保護者や地域との信頼関係があり、職場の心理的安全性が保たれ、労働環境などが良い状態であることなどが求められる。」と述べています。

※ウェルビーイングの実現とは …多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなること

本号では、教育活動と学校運営協議会を融合させ、教師と保護者と地域住民の信頼関係を深めている そお小学校の実践を紹介します。

### 【6/24(土)9:40~12:10の実施】

#### ① 授業参観(人権教育)

- 1年…だれにでも おなじように
- 2年…いいところ みつけた
- 3・4年…わたしのよいところ
- 5・6年…思いやりの心
- ひまわり…あたたかい言葉



教師と子供の温かい言葉のやり取り、友達の意見を否定しない雰囲気 …保護者や学運協委員に伝わっていました。

体を向けて、友達の意見をしっかり聞いているな。 <保護者>

自分の思ったことを自由に話している感じだな。 <保護者>

先生、絵がめっちゃ上手だね。 <小学生>



ありがとうございます。ほめてもらって嬉しいよ。 <教師>

#### ② 蘇生法講習会(保護者,学運協委員)



初めて体験しました。難しかった。毎年開催していることはいいことですね。 <学校運営協議会委員>

保護者の皆さんが、何回も何回も熱心に取り組まれていて素晴らしいです。 <日本赤十字職員>

先生と子供が楽しそうに学習していて安心しました。一人一人の子供を大切にしている様子がよくわかりました。 <保護者>



#### ③ 学校運営協議会



90%以上の保護者の皆様に蘇生法講習会に参加いただきました。保護者や地域の皆様、授業などの子供や教師の姿を見てのご意見やご感想をお願いします。 <校長>



信頼関係をつくる出発点は、互いを知ることにあります。週休日開催、授業や様々な教育活動の公開、複数の保護者との協議など時間と空間を共有する工夫がされています。





通津中学校

## 地域の教育力が 子供の多様な学びを演出！

文部科学省は、次期教育振興基本計画について（答申）〈令和5年3月〉の中で、「生涯にわたって学び続ける学習者の育成」を取り上げています。その中で、「学校教育と社会教育が連携することも重要であり、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、学校と地域住民が連携・協働することで、子供たちの学びの場を学校から地域社会に広げ、次世代の社会の担い手としての成長を支えていくことが求められる。」と述べています。

本号では、地域の公民館共催クラブ，市民活動団体，個人が学校に出向き，平素学習したことを生かして，生徒に楽しく有意義な活動を提供している通津中学校の実践を紹介します。

### 【7/11(火)13:30～16:00の実施】

＜地域住民＞ 12 講座…33 名参加

- ・ 学校運営協議会会長(井川さん)，地域学校協働活動推進員(竹原さん)，地域協育ネットコーディネーター(廣本さん)の3人が，講師への依頼や連絡調整

＜学校＞ 全校生徒 114 名が参加

- ・ 総合学習としての位置づけ，受講生徒の人数調整
- ・ 担当教諭と講師が細かい連絡調整

全体会…司会進行は生徒

学運協会長と生徒代表が挨拶

生け花



折り染め

思ったようなきれいな模様になってとても嬉しいです。 <中学生>

詩吟

茶道

日本舞踊

手話

箏

ひょうたん

地域交流会は4年ぶりの実施です。私を含め教職員はだれも経験がありません。しかし、地域の方がよくご存じで、手際よく準備や指導をしてくださり、生徒は幸せでした。とてもありがたかったです。 <校長>

日本民謡

百人一首

ラジコン

フラダンス



地域の方から「今年はやらないの?」という声があがりました。学びの成果を子供と共有したいという願いが実現できました。 <地域学校協働活動推進員>

地域の方々の優しく丁寧で粘り強い教で、子供たちも笑顔となり、わかる・できる喜びを味わっていました。講師へのあこがれも抱いたようです。学びに広がりがありました。





## 小学校でリカレント教育！生徒は地域住民?!

文部科学省は、次期教育振興基本計画について（答申）〈令和5年3月〉の中で、5つの基本的な方針を掲げています。その一つ「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」では、「学校教育における多様化とともに、社会人の学び直し（リカレント教育）をはじめとする生涯学習の必要性が高まっている。……“人生を豊かにする学び”や“他者との学び合い”を身近なものとするのが重要である。また、高齢者を年齢によって画一的に捉えることなく、第二の人生を生きる個人の意欲や能力を生かすエイジフリーな社会に対応した学習機会の確保も重要である。」と述べています。

※リカレント教育とは …学校教育を修了した後、社会人が再び学校等で受ける教育のこと

本号では、地域住民との協働的な学び〈一緒に学ぶ〉を模索している宇佐川小学校を紹介します。

### 7/5(水) 校内研修<5年算数>の一環として実施



本校は、全校児童2名の極小規模校です。グループでの話し合いが難しいことが課題です。協働的な学びを目指し、子供と大人が一緒になって寺子屋的にワイワイガヤガヤ学習できないか模索しています。〈校長〉



学校運営協議会の今井会長さんに相談しました。すると、宇佐サロンから8名の地域住民の方が、授業に参加してくださいました。〈授業者〉

考えたことを、たくさんの方の前で発表できて嬉しかった。〈小学生〉

子供たちの成長が、目の前で見てよかった。〈地域住民〉

今どきは、式を作って計算して終わりではなく、解き方を説明するところまでやるんじゃないか。〈地域住民〉

大人は、いろいろな見方・考え方をするんだな。面白い。〈小学生〉

人文字の距離と人数の関係を見つける問題でした。直線、L字型、H字型など体験的・視覚的に理解でき、とてもありがたかったです。〈授業者〉

こんなつもりじゃなかったけど…でも、頭の体操になった。〈地域住民〉



同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ、刺激し合うことができます。様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることで、生きている実感を持つことができます。地域連携教育の魅力がここにあります。



授業後には、教師と地域住民の振り返り(ユニット型研究協議)が行われ、「解き方が解る、解ったことを自分の言葉で説明する」ということについて話し合われたようです。



## 「そ～だったのか、地域連携教育」

岩国市教育委員会は、小中学校教職員対象の夏季研修講座を18コマ開催しました。その中で、採用2・3年目の教職員27名を対象に「そ～だったのか、地域連携教育」と題して、地域連携教育の魅力や進め方を中心に研修を実施しました。

本号では、研修講座の内容や受講生の思いや考えを中心に紹介します。

【7/28(金)13:30～16:30の実施】

### ① 研修前の受講生の地域連携教育に対する思い

- ・ 子供が「この場所で生まれてきてよかった」と思えるような活動がしたい。
- ・ 子供と地域がともに成長・発展できる活動がしたい。
- ・ 地域との連絡調整が難しい。 ・ 地域連携教育が必要となった背景を知りたい。
- ・ 教師が地域の方とお話しする場が少ない。 ・ 保護者の方に理解・協力いただくことが必要。

### ② 講義・演習1「持続可能な地域連携教育の進め方」

教育課程(教科, 道徳, 総合学習, 特別活動等)の中にある活動で, 地域の方と学ぶことにより, より効果の上がる活動を選択したいですね。

<指導者>

どれも意味ある活動ですが, 多すぎると実施が難しくなり…。<受講生>

地域学校協働活動の仲間分けは, 難しいけど楽しいね。いろいろな学校でいろいろな活動をしているんだな…。

<受講生>

活動を選ぶ時のポイントは, 子供にとって必要な資質・能力が育まれるかどうかです。しかも, 「あなたの学校の子供にとって」が重要ですね。<指導者>

二人組で, 言葉がけのトレーニング。相手の思いや考えは深まったかな…言動を価値づけできたかな。<受講生>

### ③ 講義・演習2「活動における振り返り」

体験により獲得した「気づき」等を言語化し, 仲間と共有することで「学び」へと進化します。『なぜ?』『誰が?』『どんなことが?』など言葉がけを工夫して, 子供の学びを深めてみましょう。<指導者>

### ④ 情報交換・協議

①異質な人との出会いで, 新しい自分に出会えること。②発見・感動・心地よさが味わえること。③人とつながり, 認められることで自己存在感・自己肯定感が高まること…

地域連携教育の魅力を, たくさんの子供たちや地域の方々に味わってもらいたいものです。

- ・ 事前感じていた疑問点が解消したり, 他校の取組について知れたり, 具体的に何に取り組めば良いか理解できた。
- ・ 各校の良い取組について質問できて, 細かいところまで分かった。 良い点, 課題点ともに地域の良さとして活かしたい。
- ・ 学校の思いと地域の願いが一致していないと, お互いうまく連携できないと感じた。





岩国市中央公民館  
師木野分館

## 楽しい活動で つながいを演出!

文部科学省は、”令和3年度 公民館に関する基礎資料”の中で、社会教育を基盤とした、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に向け、学びへの参加のきっかけづくりを重要視しています。

- ① 楽しさをベースとした学びや活動を組織する。
- ② 子育て・子供の教育、防災、健康づくり、ICT活用といった「地域の魅力化」「より良い地域づくり」につながる身近で前向きに取り組みやすいテーマを設定する。
- ③ 子供参加型のイベント等、子供をきっかけとして子育て世代が参加しやすい活動を工夫する。
- ④ 地域学校協働活動や地域の行事等への参加を通じて、幼少期から子供の地域への理解と愛着を育む取組を促進する。などの具体例を示しています。

本号では、子供や地域住民に学びの場を積極的に提供している 師木野(しぎの)分館を紹介します。

### 三世代交流「パンづくり教室」8/10 実施



子供も大人もみんなが楽しめるのがしたい。それが私のやりたいこと(仕事)です。  
＜小坂 社会教育指導員＞

捏ねるのがすごい上手、めちゃくちゃ上手だね。  
＜地域住民＞

がんばってください。  
＜小中学生＞

ありがとう。褒められるとうれしいよ。午前中もやったからね。  
＜小学生＞

牛乳50g、水20g正確に測るのが難しいよ。手が震えるよ。  
＜地域住民＞

学校のカリキュラムにはない体験です。子供・保護者・高齢者の三世代での心と言葉と行動の温かいやりとりが展開されていました。楽しい活動を通して「つながり」が深まる素敵な演出です。



### パフェスタンド作り 8/28 実施

子供たちは、保護者や地域の皆様等に温かく見守られて、大変幸せです。夏休み期間中、師木野分館での様々な活動に参加し、みんなの笑顔があふれていました。  
＜藤村 柱野小校長＞



学校、公民館、放課後児童教室が一体となって、柱野地区の子供たちの学びや育ちを支えています。「学校や地域でのつながり」が、子供の幸福感を高めています。

子供たちの作品はどれも個性的です。教える私自身も、とても楽しいです。  
＜スイーツデコ作家 林山さん＞

おいしそうになってきたな。本物みたいだな。パティシエになった気分だな。  
＜小学生＞





中洋小学校

## 地域住民の力で 子供の多彩な才能・能力を伸ばす！

文部科学省は、“教育振興基本計画”（令和5年6月16日閣議決定）の中で、今後の教育政策に関する基本的な方針の一つとして、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」を定めています。

その中で、「これまでの同一年齢で、同一内容を学習することを前提とした教育の在り方に過度にとらわれず、個々に最適な学びを提供するとともに、正解（知識）の暗記や画一的な教育による弊害を排し、同質ではなく異質なものと融合こそがイノベーションを生み出すとの発想の下、多様な才能・能力を生かす教育を行っていくことが求められる。」と述べています。

※ イノベーション…新たな考え方や技術を取り入れ、新しい価値を生み出し、社会に大きな変革をもたらすこと  
本号では、地域住民と教職員が力を合わせ、個別な学びを提供している中洋小学校を紹介します。

### 「たくしゃ教室」＜子供の学びへの支援＞

【実施日】 毎週金曜日 【場所】 パソコンルーム

【時刻】 13:05～35＜昼休み＞

【参加者】 希望する子供＜1～6年＞

【支援者】 地域住民、校長、教頭、教職員

計算ドリルの問題を  
やっています。困っ  
たら優しく教えてく  
れます。やる気が出  
ます。 <子供>

数字カードを見せるのだな。  
(18を見せて)何と何の数字  
できているかな。  
<地域住民>

子供は地域の宝です。  
頑張っている子供を見  
ると、自然と応援したく  
なります。 <地域住民>

10と8です。どう  
ですか？ <子供>



幕末の陽明学者 東沢瀉にあやかった地域住民による  
学習支援です。私(校長)の学力向上への課題を聞いた  
学運協委員さんが、地域住民に声掛けして始まりま  
した。14名の登録があり、毎回5名以上が参加してく  
ださい。ありがたいことです。 <山縣 中洋小校長>

(漢字ドリルの練習を見て)  
最高、最高、とても上手だね。  
<地域住民>

学校に来ることや子供に  
教えることは全く苦になり  
ません。楽しいです。  
<地域住民>

一人ずつに教えてくれるの  
でよく分かります。聞いてもら  
って嬉しいです。 <子供>



地域連携教育の“よさ”である「異質なものと出会い」と「学力  
向上」が上手く結びついていました。  
大人の声掛けや接し方が素晴らしく、子供一人一人が自分のよ  
さや可能性を実感したり、自分ではない他者(地域住民)を価値  
ある存在(ありがたい存在)として感じ取ったりできていました。

# つながり

大上好久

令和5年10月16日発行

Tel:29-5210 Fax:21-3456

由宇小学校



## 地域の魅力は 足でかせいで 見つける！

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会が、平成27年12月に「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた 学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」の中で、「地域における学校との協働体制の目指す姿」を示しています。

その中で、「地域の人材・物的資源を活用するなど、学校教育の目指すところを社会と共有・連携しながら実現する必要がある。例えば、郷土学習の場合は、地域住民と学校とが相互に知識と経験、物や施設を提供し合って教育活動をすることが望ましい。」と述べています。

本号では、地域学校協働活動推進員がコーディネート(まとめ)役を務め、教職員に地域の人材・資源の魅力を体感させ、教育活動に生かしている由宇小学校を紹介します。

### 教職員の夏の地域研修 <地域の教育資源を知る！>

【令和3年度】 銭壺山・ふれあいパーク, 由宇歴史民俗資料館, 史跡めぐり

【令和4年度】 ミクロ生物館, TARO のいちご

【令和5年度】 なかくら蕎麦工房

里山再生プロジェクトの一つです。十割蕎麦の美味しさと蕎麦打ちの楽しさを味わって下さい。  
<地域住民>

同じ幅に切るのは難しいけど楽しいです。体験は貴重です。  
<教職員>

自分が作った蕎麦は、メチャクチャ旨いです。子供も喜びそうです。  
<教職員>

耕作放棄地を活用した蕎麦作り・蕎麦打ち体験は、由宇地区の活性化に役立っています。素晴らしい取組を職業講話として、授業の中で子供に伝えてもらうことにしました。  
<永田 校長>

地域連携教育の出発点は、学校と地域がお互いを知ることです。教職員が体験により学んだ地域の魅力は、子供たちにしっかりと伝えられ、子供たちが地域をもっと好きになると思います。

岩国市教育委員会は、地域学校協働活動推進員を14名委嘱し、中学校区ごとに1名配置しています。

#### 主な役割

学校や学校運営協議会と連携を図りつつ、時には学校との連絡窓口となり、時には住民、保護者間の調整役となって協働活動を推進していくことです。簡潔に言うと、地域と学校をつなぐ役割です。

今年もお世話できてよかったです。  
<地域学校協働活動推進員 藤重さん>





## 学校が抱える課題(弱み)を 地域住民がフォロー!

平成27年12月の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の中で、「学校は、“チーム学校”の考え方の下、学校現場以外での様々な専門性を持つ地域の人々と効果的に連携しつつ、教員とこれらの者がチームを組んで組織的に諸課題に対応するとともに、保護者や地域の力を学校運営に生かしていくことが必要である。」と述べています。

本号では、専門性を必要とする指導困難な学習に、地域住民が補助役として参画し、学習効果を高めている高森小学校を紹介します。

### 4年 算数学習「そろばん」

※ 周東町の小学校6校の合同学習<4年>として実施

高森小(44名)、修成小(2名)、米川小(7名)、そお小(5名)、川上小(3名)、周北小(1名)

#### 【実施までの流れ】

- ① 教職員から意見を聞いて、校長が依頼
- ② 地域住民への呼びかけ・連絡調整 …依頼を受けた地域学校協働活動推進員(河林さん)
- ③ 当日の駐車場の世話 …事務主事 事前説明 …学年主任, 地域学校協働活動推進員
- ④ 11名の地域住民が3クラスに分かれて補助(子供は1クラス約20名)

呼びかけに快く応じていただきありがとうございます。気楽に、できる範囲でお手伝いをして下さい。

<地域学校協働活動推進員 河林さん>

そろばん学習は、経験の少ない子がたくさんいます。個別に声かけをお願いします。<学年主任>

なるほど。そういうことか。よくわかったぞ。<子供>

今日、お世話になる皆さんに自己紹介させていただきます。名前を覚えて下さいね。<学級担任>

黒板を見てごらん。もう少しでできそうだよ。

<地域住民>

そうそう、いいね。ここは〇〇だね。<地域住民>

そろばんは、自分自身も使いません。指導はとても難しく、とても困ってました。最初は、地域の人に少し遠慮もありましたが、子供は喜んでいました。お願いして本当によかったです。助かりました。<学級担任>

担任の先生の指導や指示を真剣に聞いて、わかりやすく子供に橋渡しをしておられる姿が印象的でした。学校だけでは抱えきれない課題を地域の方と一緒に解消していくことは、地域連携教育の大きな魅力です。家庭と学校と地域が、弱みを出し合うことが必要です。





由西小学校

## 地域の課題は 私の課題！ 私に何ができるかな!?

文部科学省の調査研究協力者会議等（初等中等教育）の主権者教育推進会議＜令和3年3月31日＞が、「今後の主権者教育の推進に向けて」（最終報告）を出しています。その中で、「地域における教育として、身近な地域の課題などを知り、地域の構成員の一人としての意識を育み、地域課題解決に主体的に向き合うためには、地域資源を活用した教育活動、体験活動や地域行事等に、社会の一員として主体的に参画できる機会を増やすことが重要である。」と述べています。

本号では、保護者と地域住民と子供たちが、地域活性化について熟議し、アイデアを子供が中心となって具体的な活動まで発展させている由西小学校を紹介します。

### テーマ「由西のよさを たくさんの人に 知ってもらおう」

【令和4年度】…由西のよさを多方面から熟議 <子供、保護者、地域住民、卒業生で>

【令和5年度】

① 7/19 よさを広めるための具体的な方法を熟議 <子供、保護者、地域住民、卒業生で>

図鑑・由西観光パンフレット作成(生き物、観光地、歴史)、ポスター・マップ作り、キャラクター作り…子供の発想は素晴らしいです。<学級担任>



なるほど、いい考えだね。そんなアイデアは気付かなかったな。<地域住民>

自分の考えをワークシートに書いて参加したので、上手く発表できたよ。<子供>

グループ発表は、緊張したけど、大きな声で発表できてよかったです。<子供>

自分の考えを堂々と発表しているな。成長したな。<保護者>

② 10/6 よさを体験的に理解するために地域探訪

<地域住民が、ガイド役で>



地域の歴史を知ることから、新しいことを生み出すことができます。<地域住民>

これは、由西のよさだ。しっかりメモして、詳しいまとめができるようにしたいな。<子供>

由西を知ることは、由西の人になることです。皆さんは地域の一員です。今日は、地域の皆さんのお陰で、とても有意義な学習になりました。<関本校長>

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現が必要とされる背景の一つに、地方創生の動きがあります。子供は、地域に関する自分の思いや考えが、具体的活動として実現することの喜びを感じているようでした。地域に詳しい住民の力をお借りし、カリキュラムにある学びを深める中で、子供と住民のつながりが深まり、地域への理解や愛着が増したようです。





### 地域に密着した ボランティア体験が 豊かな心を育む！！

文部科学省は中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編の中で、「豊かな体験活動の充実」を取り上げています。その中で、「他の人々や社会のために役立ち自分自身を高めることのできるボランティア活動、……地域の行事への参加も、幅広い年齢層の人々と接し、人々の生活、文化、伝統に親しみ、地域に対する愛着を高めるだけでなく、地域貢献などを通じて社会に参画する態度を育てるなど、生徒にとっては道徳性を養う豊かな体験となる。」と述べています。

本号では、子ども食堂「おひさまカフェ」にボランティアとして参画し、地域に貢献している玖珂中学校を紹介します。※ 子ども食堂 …子供やその保護者、地域住民に対し、無料または安価で、栄養のある食事や温かなだんらんを提供するための社会活動（明確な定義はない）

#### 子ども食堂 ボランティア活動 <毎月 第3土曜日>

調理や配膳、おもてなしだけではなく、来た子供が楽しめる活動が仕組んであります。中学生はこのボランティアを楽しみにしていて、毎回募集をかけて、1日で定員が埋まってしまう。<青木教頭>



令和2年10月に活動を開始し、食事の提供だけでなく、工作などのリクリエーション、フラワーアレンジメント、クリスマスコンサート、茶道体験など多様な活動を取り入れています。地域の皆さんや中学生、高校生のボランティアスタッフが活動を支えています。

<おひさまカフェ代表 高木さん>



何回も参加しているので、要領がわかってきました。活動自体が楽しく、「また来たい」といつも思います。<中学生>

事前に、地域の方に教えてもらったので、小学生に上手くお茶を出すことができました。<中学生>

玖珂中の卒業生です。“ありがとう。”と言ってもらえることが嬉しくて……<高校生>

食糧の仕分け(フードパントリーの活動)も慣れてきました。自分が人の役に立っていることが嬉しいです。<中学生>



調理する人、会場を作る人、体験活動やゲームコーナーを作る人、そして参加した人、全員が笑顔でした。玖珂小の家庭科室・多目的スペースの活用で、子供も地域住民も集まりやすくなったようです。地域交流の拠点の一つとして、住民のつながりを深め、地域で子供の成長を見守る姿がそこにありました。そして、地域の一人として、生き生きと活躍する中学生、卒業生のたくましさを感じました。学校や家庭で育てられたボランティアの心が、地域の活動で生かされる… 学校教育、社会教育、家庭教育の一体感を感じました。



## 地域の力で 実感を伴った 直接的な体験が 実現！

文部科学省は中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編の中で、「幼児の生活と家族」を取り上げ、幼児の発達と生活の特徴、幼児にとっての遊びの意義、幼児との関わり方等を具体的な内容として示しています。そして、指導に当たっての留意点として、「地域の実態に応じて、子育て支援などの関係機関や子育てサークルの親子などとの触れ合いや、教室に幼児を招いての触れ合いを工夫するなど、可能な限り直接的な体験ができるよう留意する。さらに、幼児と触れ合うことの楽しさやよさを実感できるように配慮する。」と述べています。

本号では、関係機関が中心となり、中学生と乳幼児の自由でゆったりとした触れ合いを実施している川下中学校と岩国西中学校を紹介します。

### 赤ちゃんと中学生のふれあい体験 <3年生>

【川下中】 ●家庭教育支援チーム[チームほっとちゃん]が中心となって

10/26, 27…出前授業「乳幼児との関わり方やふれあいの時の注意点」

<連携…岩国短期大学幼児教育科>

11/1, 2 …赤ちゃんと中学生のふれあい体験 <中学生は家庭科学習として>

<連携…母子保健推進員, 岩国市子ども家庭課母子保健班>

とにかく、めちゃくちゃ可愛いです。  
<中学生>



乳幼児学級や家庭訪問の時に、ふれあい体験のパンフレットを配布し参加する親子の募集をしたり、当日のアシストをしたり、母子保健推進員は大活躍でした。

### 母子保健推進員のメンバー



抱っこできました。泣かなくてよかったです。<中学生>

とても楽しくて、45分はあっという間でした。  
<中学生>

【岩国西中】 ●岩国市中央公民館 北河内・南河内分館が中心となって

11/7 ……公民館講座「中学生と乳幼児のふれあい体験」 <中学生は家庭科学習として>

<連携…北河内認定こども園, 母子保健推進員, 岩国市子ども家庭課こども家庭センター>

乳幼児をもつ家庭が少ないため、認定こども園を会場としてお願いしたり、参加者を公民館だよりで募集したり、母子保健推進員と連携したり、コーディネート役として北河内・南河内分館は大活躍でした。



国際色豊かだな。遊びは万国共通なのだな。<中学生>

作ってきた遊び道具、こんなに喜んでくれて本当に嬉しい。よかった。<中学生>

どちらの会場も、生徒ばかりでなく、親もわが子の楽しそうな姿を見て、とても喜んでいました。中学生は、乳幼児を観察したり、一緒に遊んだりするなどの直接的な体験で、遊びの意義や乳幼児との関わり方を実感を伴って理解できたようです。本物にふれることができるということ(実体験)も、地域連携教育の魅力の一つです。



# つながり

令和6年1月1日発行

Tel:29-5210 Fax:21-3456



そお小学校



修成小学校

## 幸福や生きがい 世代を超えて広がっていく!



文部科学省は、“教育振興基本計画”（令和5年6月16日閣議決定）の中で、今後の教育政策に関する総括的な基本方針として、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げています。

その中で、「ウェルビーイングが実現される社会は、子供から大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。子供たち一人一人が、幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供や地域を支え、さらには世代を超えて循環していくという在り方が求められる。」と述べています。 ※ウェルビーイングの実現とは …多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、

地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなること

本号では、子供たちの学ぶ学校という舞台上、世代を超えた交流（学び）を展開している「そお小学校」と「修成小学校」を紹介します。

### 11/11(土) 三世代ふれあいフェスタ【そお小】

みんなが集まって食べるのはいいですね。子供の声を聞くと、地域のメンバーも元気です。

<地域住民>



自分たちの考えた遊び、大人の方がすごく喜んでくれてとても嬉しかったです。

<子供>

牛肉と野菜のお汁です。お餅を入れて最高に美味しかったです。

<子供>

餅つきはとても楽しかったです。準備してもらい、ありがとうございます。

<子供>

触れ合う機会を作ってもらい、学校に感謝です。安全面はこれからも大切にしたいですね。

<地域住民>

《終了後に行われた学校運営協議会にて》



サツマイモは地域の皆さんと春に植え、先日掘りました。餅つきのお世話は育友会が中心、ふれあい遊びは子供が企画運営。教職員は子供に寄り添いながら活動できました。子供も地域の方も保護者も笑顔で安心しました。

<藤井教頭>



### 11/19(日) 三世代ふれあいフェスティバル【修成小】

子供たちは、修成でみつけた「すてき」やはちみつのお店との商品開発など、地域で学んだことを発表しました。手作りおもちゃやレクリエーションを通して、地域の方と子供たちのつながりが深まってよかったです。

<吉松校長>



久しぶりに皆さんに出会い、話も出来て楽しかったし、ありがたかったです。

<地域住民>

たくさんの大人の方とのレクリエーション、とても楽しかったです。

<子供>

異質なものの出会いで、新たな自分に気付くことも地域連携教育の魅力の一つです。時空間を縮める活動を通して、他人の存在が身近となり、優しさ・心地よさ・ありがたさ等を感じ取ったようです。関わりの少ないくなく、ヒト・モノ・コトガラに出会うことで、新しい発見がたくさんあったようです。…子供たちも大人も生き生きとしていました。



# つながり

大上好久

令和6年1月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



## 祭りで 子供と先生と地域住民の 思いが一つに！

小学校学習指導要領（平成29年7月告示）解説 総則編の中で、「豊かな体験活動の充実（第1章第6の3）」を取り上げています。その中で、「…地域社会の行事への参加も、幅広い年齢層の人々と接し、人々の生活、文化、伝統に親しみ、地域社会に対する愛着を高めるだけでなく、地域社会への貢献などを通じて社会に参画する態度を育てるなど、児童にとっては道徳性を養う豊かな体験となる。」と述べています。

岩国市内では、地域行事を学校のカリキュラムの中に取り込み、全校や学年として参加している小中学校があります。本号では、4年生全員(88人)が参加した玖珂小学校を紹介します。

### 11/19(日) 鞍掛城(くらかけじょう)まつり 【玖珂小】



《当日までの学び● その後の学び(予定も含む)◎》

- 玖珂町の歴史や「いきりこ」(子供たちが参勤交代をまね明治時代に始まった行列)について、地域住民から話を聞く。 ◎ 祥雲寺を訪問する。 ◎ まとめを発表する。
- 「いきりこ」「花笠音頭」「輪投げ・射的ブースの出店」の3グループに分かれて活動



これまでは、人数が少なかったのですが、今回は38人です。学校の協力と子供たちの頑張りで「いきりこ」が盛り上がっています。

〈保存会 田村会長〉



練習や準備では、これまでの学習を生かして、真剣に取り組んでいました。地域の方に喜んでもらおうとする気持ちが伝わってきました。

もうすぐ本番です。呼びかけ、説明、自分の動き…お客さんの立場に立って最後の工夫をしよう。

〈学級担任〉



緊張しました。でも、たくさんの方に見てもらって嬉しかったです。

〈子供〉

週休日を全校授業日とし、4年生は授業の一環として参加しました。子供も地域の方も喜んでいました。地域貢献ができてよかったです。

〈長岡 校長〉



地域学校協働活動は、無理があつては長続きしません。楽しさややりがいを感じなければ充実感が得られません。カリキュラムに組み込むことで、子供も教職員も地域住民も、計画的にじっくりと取り組むことができたようです。「地域を盛り上げよう」という同じ思いを持ち、お互いの立場を尊重しながら活動している姿に感動しました。

# つながり

大上好久

令和6年2月1日発行

Tel:29-5210 Fax:21-3456

## 川上小学校



### 語り合いで 活動が変わり 子供が変わる!

中央教育審議会は、「学校と地域の連携・協働の在り方」を示した答申<平成27年12月>の「おわりに」で次のように述べています。「誰かが何とかしてくれる,のではなく,自分たちが『当事者』として,自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子供たちのために学校を良くしたい,元気な地域を創りたい,そんな『志』が集まる学校,地域が創られ,そこから,子供たちが自己実現や地域貢献など,志を果たしていける未来こそ,これからの未来である。」

本号では,熟議と地域学校協働活動のそれぞれのPDCAサイクルを回しつつ,地域住民と教職員が一体となり,志を持って,子供の学びや成長を支えている川上小学校を紹介します。

※ PDCA サイクル …計画→実行→評価→改善 の繰り返し

#### 語り合い(熟議)の繰り返しと カリキュラムの見直し 【川上小】

- ◎ 4月の教職員と地域住民と保護者の熟議で,「学校・地域連携カリキュラム」を見直し,中核とする地域学校協働活動を3つ決定し,共同実践した。更に,活動のたびに評価し,すぐに取り組を改善した。
- ◎ 充実した活動を展開する中で,「お世話になっている地域の方に感謝を伝える機会を持ちたい」という思いから,子どもが主役となる「川上オールスター感謝祭」12/11の実施となった。

**P**lan

#### 計画(熟議の活用)

- ・目指す学校像の実現に向けた語り合い
  - …3つの元気がある学校 (子供, 家庭・地域, 教職員)
- ・熟議のメンバー…教職員, 学運協委員, 保護者

子供が大変喜んだので, 今年の紙芝居づくりを発展させ, 劇をしてはどうでしょう。脚本なら私が書けます。<学運協委員>

子供と地域を元気にするため米作りはどうでしょう。家の田んぼが活用できます。<学運協会長>

**D**o

#### 目的・目標に向けた取組

『①米作り, ②鮎原劔神社の劇の披露, ③学校歌の作成』

川上の魅力を歌にして, 地域の皆さんに披露したら, 地域が元気になるのでは? <地域連携担当教員>

脚本づくり, セリフや動作も教えてもらって上手くできました。ありがとうございます。<子供>

**A**ction

#### 取組の改善(熟議の活用)

子供がタブレットの扱いを住民に教え, 参加者全員で川上小のクイズに挑戦していました。

読み聞かせ等お世話になりました。感謝の気持ちです。ご飯は美味しいですか。<子供>

**C**heck

#### 活動に対する評価(熟議の活用)

どんな学校, どんな子供を目指すかがはっきりしていました。学校・地域・保護者が, 自分は何ができるかを出し合い, 折り合いをつけながら, 実現可能な活動を展開していました。周りの大人が, 子供の成長した姿を見ながら, 喜びを分かち合っている姿が印象的でした。





美和中学校

## 年月をかけ 手間暇かけた和紙づくりで 地域づくり!

中学校学習指導要領(平成29年7月告示)解説 総合的な学習の時間編の中で、「外部との連携の構築(第9章第5節)」を取り上げています。その中で、「町づくりや地域活性化につながった活動や取組、生徒が地域の伝統や文化を守り・受け継いだ活動や取組、地域の商店街の再生につながった活動や取組などは、学校を地域に開くことにもつながり、保護者や地域との信頼関係を築く大きな要因になると共に、学校を核として地域社会も活性化していく『次世代の学校・地域』を創生していくことにもつながる。」と述べています。

本号では、地域の伝統である「和紙」を生かした卒業証書づくりに、長年にわたって取り組んでいる美和中学校を紹介します。



### 和紙を使った卒業証書づくり 【美和中】

◎ 卒業証書(和紙)の原料となるトロロアオイや三椏(ミツマタ)の栽培・収穫から紙すきに至るまでの全工程を、地域住民でつくる“長谷みどりの会”の方々の指導の下、3年間かけて行っている取組です。

#### 【1年生の時 …原料となるトロロアオイと三椏の栽培・収穫】



三椏は、子供の目の届く中学校の裏山や敷地内に植樹され、1年生は初めての収穫体験でした。



今年の2年生は、特に明るいですね。校歌や流行りの歌を歌いながら、粘り強く黒皮を剥ぎ取っています。<地域住民>



#### 【2年生の時 …皮、黒皮剥き】

今年でこの活動は9年目です。原料が収穫できるまで最低4~5年はかかります。長谷みどりの会も学校も、子供の喜ぶ顔が見たくて頑張っています。

<地域住民>



3年生の卒業証書になるんだな。来年は自分たちの番だな。<子供>

三椏は4~5時間かけて蒸してもらいました。気を付けることやコツを教えてもらいやっと全部剥けました。<子供>

乾燥させた皮をアルカリで煮て水洗してもらいました。小さな異物は、頑張って、ピンセットでとりました。<子供>



#### 【3年生になって …紙すきによる卒業証書づくり】



水が冷たいな、和紙はドロドロして重たいな。でも、色々教えてもらって、楽しかったし、嬉しかったな。<子供>



長谷みどりの会には大変お世話になっています。生徒は美和の伝統的な和紙づくりを体験し、自分だけの卒業証書を手にする喜びを味わっています。<山田 校長>



旧長谷小学校跡地で行われた皮剥ぎ、紙すき作業、「地域で子供の声が聞けると、元気ができます。」という地域住民の言葉が心に残りました。長い期間や時間を費やしての活動、地域にとっても学校にとっても、無理のない持続可能な活動にするための苦労や工夫がたくさんありました。